2) ガバナンス部門

辻康夫（教授・政治学）

センターの部門に関連した研究活動およびそのアウトプットについて。

私の研究テーマは多文化主義およびマイノリティをめぐる政治理論であり、当センターにおいては、多文化主義とガバナンスをめぐる研究に従事している。多文化主義はその単純な外見に反して、多様な政策課題に対応する複雑な構造を持ち、これに対応していくつかのアプローチにカテゴリー化することができる。私はこれを「文化アプローチ」「支配・抑圧アプローチ」「コミュニティ・再建アプローチ」として定式化し、それぞれの論理と相互の関係を検討してきた。センターの事業としては、国際シンポジウム「同性婚をめぐる司法を法学の展開」を企画し、司会・コメンテーターをつとめた。同性婚問題は、一般的には不当な差別の解消の問題として理解されることが多いが、実際にはこれに加えて、ジェンダー分業やセクシュアリティ、経済システムをめぐる問題とも連動する複雑な問題である。今回のシンポジウムではこれを「司法と法学」の論理から掘り下げるもので、専門性と学際性を標榜する当センターの特長を示すものになったと考えている。

自身の研究活動およびそのアウトプットについて。

多文化主義研究については、昨年度末に「コミュニティ再建アプローチ」についての研究成果を論文にまとめ、今年度は「文化アプローチ」に検討の中心を移している。この成果は日本解放社会学会の大会で報告し、これにもとづく論文を来年度に公刊すべく準備している。また、多文化主義と「歴史的不正義」の関係についての論文を１点脱稿しており、近々刊行される論文集に収録される見込みである。このほかに、アイヌ政策を論じた論文を中国の学術雑誌に寄稿した。また書評論文を1点公刊した。

その他（教育活動ほか）

学部向けには、法学部専門科目「政治学」の講義と、「演習Ⅰ」「演習Ⅱ」を担当した。また公共政策大学院および研究大学院向けには、「公共哲学」および「政治学特別講義」を担当した。全学教育についてはオムニバスの総合講義「価値対立時代の対話学」のうちの２回分を担当した。

論文

論文標題	雑誌名	発行年	頁
辻康夫(著)、张昊迪(訳)「日本阿伊努民族政策的发展历史」	『日本哲学与思想研究(2017)』	2019 年	315-322
「書評：『ロバート・フィルマーの政治思想』（古田拓也著、岩波書店、2018 年）」	『社会思想史研究』43 号	2019 年	142-145

学会発表

発表課題	学会等名	年月日	発表場所
本質主義批判をふまえた多文化主義政策の可能性	日本解放社会学会	2019 年 9 月 3 日	早稲田大学